

RPSJ NETWORK

Railway Preservation Society of Japan

日本鉄道保存協会総会 2011

2011（平成23）年10月20日21日

東海旅客鉄道（株）リニア・鉄道館



は じ め に

さる4月、日本鉄道保存協会は満20歳となりました。最初の正会員は鉄道車両の動態保存を行う14団体でしたが、その後静态保存をする団体も迎え入れ、現在は加盟団体が30を超えて、一層の広がりをみせています。開館したばかりのリニア・鉄道館をお借りして、記念すべき年の総会を開くことができることは、まことに喜びにたえません。

3月に東日本を襲った大震災、津波、原発事故の三重苦は、日本にとって大きな試練となり、会員団体の中にも事業運営に大きな影響をうけたところがあります。被災地の皆様が一刻も早く立ち直ることを心からお祈りしたいと思います。この大災害を契機に日本社会をこれまで支配してきた価値観や人々の行動規範にも大きな変化が生じようとしています。この変化が鉄道保存運動の追い風となることを期待したいと思います。

このリニア・鉄道館をはじめ、歴史的車両の動態保存や静态保存は全国各地で推進され、駅舎・橋梁・隧道など鉄道施設や鉄道に関する図書・文書などの文化遺産を保存し、地域活性化の核として活用する事例も見られるようになりました。鉄道遺産は日本の近代化遺産の中でも最も重要なものの一つであり、その価値を後世に伝えることは私たちの責務と言えます。日本ではこの数年、空前の鉄道ブームが続き、地球規模で激変する経済環境の中で世界的にも鉄道再評価の機運が高まり、わが国の政策も鉄道を中心とする公共交通の再構築に向かっていきます。これからの成長産業と考えられる観光部門の中で、保存鉄道が果たす役割は小さくないと思われます。とはいえ日本の現状は、欧米諸国の先進事例に比べるとまだまだ満足すべきものではありません。

むしろ、私たちの活動は大きな困難にも直面しています。多くの保存団体に共通する財政難の問題は言うまでもありませんが、そのほかにも、意気込み高く始めた保存事業が時の経過とともに勢いを失う事例や、市町村の合併に伴って管理運営の困難を来している事例も見られます。

21年目を迎えたこの鉄道保存協会自体も、組織と言うにはあまりにも脆弱な存在であり、組織面でも財政面でも体質強化の必要に迫られています。そのうえ、山田コレクションの保全と公開、国際組織への参加等の新しい課題への対応も緊急の課題となってきました。正会員、賛助会員、友の会会員が一体となり、知恵を出し合ってこれらの問題を克服し、いっそうの発展を期したいと思います。

2011年10月

日本鉄道保存協会代表幹事団体
公益財団法人交通協力会理事長 菅 建彦

日本鉄道保存協会 2011（平成 23）年度総会

1. 総会および講演・討論会 敬称略

[日時] 2011（平成 23）年 10 月 20 日（木） 11 時から 20 時 30 分まで

[場所] 東海旅客鉄道（株） リニア・鉄道館

1100 受付、館内自由見学

* 昼食は各自館内でおとりください。

1300 館内「講座室」でリニア・鉄道館の説明会、館内バックヤードツアー

1400 総会開会 司会 名取 紀之

1405 挨拶 代表幹事団体（公財）交通協力会 理事長 菅 建彦
リニア・鉄道館 館長 金子 利治 1415 出席

者紹介

1435 総会議事

- | | |
|--------------------|------|
| 1) 平成 22 年度事業報告 | 資料 1 |
| 2) 平成 22 年度収支報告 | 資料 2 |
| 3) 平成 22 年度会計監査報告 | 資料 3 |
| 4) 平成 23 年度事業計画（案） | 資料 4 |
| 5) 平成 23 年度収支予算（案） | 資料 5 |
| 6) 山田コレクションについて | 資料 6 |
| 7) WATTRAIN について | 資料 7 |
| 8) その他 | |
| 9) 次期開催地について | |

1510 (休憩)

1520 開催地報告 リニア・鉄道館副館長 天野 満宏

1545 事例報告と討論

報告者：	上松町商工観光課 主査	織田 浩市
	博物館明治村 マネージャー	鈴木 智久
	大井川鐵道(株) 運輸車両課長・区長	石川 寛之
	貨物鐵道博物館 館長	清水 武
	若桜駅を元気にする会 事務局	竹本 英樹
	陸別町商工会 副会長	山本 周二

コーディネーター： 米山 淳一

コメンテーター： 堤 一郎

1700 (懇親会場に移動) 会場：名古屋マリオットアソシアホテル 15 階「パーゴラ」

1815 懇親会開始

2030 終了・解散、各自宿泊先へ

2. 見学会・昼食・オプションツアー

[日時] 2011（平成 23）年 10 月 21 日(金) 9 時 30 分から 11 時まで

[場所] 東海旅客鉄道(株)名古屋車両区

930 名古屋車両区正門前 集合
近畿日本鉄道名古屋線 黄金駅下車（近鉄名古屋駅から乗車、二つ目です）

1145 昼食 名古屋マリオットアソシアホテル 52 階「ジーニス」

1245 オプションツアーに出発（博物館明治村または貨物鉄道博物館）
それぞれの見学担当者のご案内します。

1600 現地解散

〔MEMO〕

日本鉄道保存協会2011年度総会出席者名簿・その1 敬称略 ☆新規加入者

所属等	役職等	氏名	総会	懇親	見学	オブ
顧問	東京学芸大学名誉教授	青木 栄一		(欠席)		
顧問	英文学者	小池 滋		(欠席)		
顧問	産業技術歴史文化研究所専務理事	堤 一郎	○			
顧問	レイル・マガジン編集長	名取 紀之	○	○	○	貨
顧問	地域遺産プロデューサー	米山 淳一	○	○	○	明
遠軽町(旧丸瀬布町)	商工観光課長	大河原忠宏	○	○	○	
遠軽町(旧丸瀬布町)	丸瀬布総合支所産業課担当係	小山信芳	○	○	○	
三笠市	(欠席)					
北海道旅客鉄道株式会社(JR北海道)	(欠席)					
NPO法人ひがし大雪アーチ橋友の会	(欠席)					
NPO法人北海道鉄道文化保存会	理事長	飯田勝幸	○	○	○	貨
NPO法人北海道鉄道文化保存会	常務理事	清水道代	○	○	○	貨
三菱大夕張鉄道保存会	(欠席)					
陸別町商工会	副会長	山本周二	○	○	○	貨
磐越西線SL運行推進協議会	(欠席)					
真岡線SL運行協議会	(欠席)					
碓氷峠鉄道文化むら(財団法人 碓氷峠交流記念財団)	係長	櫻井 一聖	○	○	○	
日本工業大学	教授・工業技術博物館館長	松野 建一	○	○	○	
秩父鉄道株式会社	(欠席)					
西武鉄道株式会社	(欠席)					
公益財団法人東日本鉄道文化財団	鉄道博物館学芸員	五十嵐健一	○	○	○	貨
東武博物館(財団法人 東武鉄道共助会)	館長	花上 嘉成	○	○	○	貨
公益財団法人交通文化振興財団	専務理事	守屋 實	○	○		
財団法人日本ナショナルトラスト	(欠席)					
公益財団法人交通協力会	理事長	菅 建彦	○	○	○	貨
上松町	商工観光係 主査	織田 浩市	○	○	○	
虹の郷(財団法人伊豆市振興公社)	(欠席)					
大井川鐵道株式会社	運輸車両課長・区長	石川寛之	○	○		
東海旅客鉄道株式会社(JR東海)	リニア・鉄道館館長	金子利治	○	○		
東海旅客鉄道株式会社(JR東海)	リニア・鉄道館副館長	天野満宏	○	○	○	
東海旅客鉄道株式会社(JR東海)	車両部車両管理課長	長澤章二			○	
博物館明治村(財団法人明治村)	マネージャー	鈴木智久	○	○		明
博物館明治村(財団法人明治村)	乗物担当サービススタッフ	阿部 豊	○	○		明
西日本旅客鉄道株式会社(JR西日本)	広報部	三谷竜平	○	○		
貨物鉄道博物館	館長	清水 武	○	○	○	貨
貨物鉄道博物館	理事	北川 潤	○	○	○	貨
加悦SL広場(宮津海陸運輸株式会社)	管理部課長	柴田万喜成	○	○	○	
NPO加悦鐵道保存会	理事長	吉田 博一	○	○	○	
NPO加悦鐵道保存会	理事	中井 喜宏	○	○	○	
NPO加悦鐵道保存会	会員	神谷 潔	○	○	○	
ふるさと鉄道保存協会	副会長・事務局長	中井 健二	○	○	○	
片上鐵道保存会	代表幹事	森岡 誠治	○	○	○	貨
片上鐵道保存会	会員	手嶋康人	○	○	○	貨
NPO法人市民文化財ネットワーク鳥取	会長	渡辺一正	○	○	○	明
NPO法人市民文化財ネットワーク鳥取	事務局長	太田 縁	○	○	○	明
NPO法人市民文化財ネットワーク鳥取	幹事	羽馬康俊	○	○	○	明
若桜駅を元気にする会	会長	藤原源市	○	○	○	明
若桜駅を元気にする会	幹事	原 卓也	○	○	○	明

若桜駅を元気にする会	幹事	新川哲也	○	○	○	明
若桜駅を元気にする会	幹事	小林 誠	○	○	○	明
若桜駅を元気にする会	事務局	竹本英樹	○	○	○	明
馬路村・やなせ森林鉄道運営委員会	(欠席)					
山口線SL運行対策協議会	(欠席)					
九州旅客鉄道株式会社(JR九州)	(欠席)					

日本鉄道保存協会2011年度総会出席者名簿・その2

	役職等	氏名	総会	懇親	見学	オブ
賛助会員	株式会社鉄道ジャーナル社		(欠席)			
賛助会員	株式会社ネコ・パブリッシング	名取 紀之	(顧問欄に記載)			
賛助会員	日本鉄道写真作家協会	猪井貴志	○	○	○	
賛助会員	日本鉄道写真作家協会	河野孝司	○	○	○	
賛助会員	北陸重機工業株式会社		(欠席)			
賛助会員	株式会社JTBパブリッシング企画第一編集部	大野雅弘	○	○		
賛助会員	株式会社JTBパブリッシング企画第一編集部	入江一也	○	○	○	貨
賛助会員	けいてつ協会	岡本 憲之	○	○	○	
賛助会員	有限会社鉄道フォーラム	伊藤 博康	○	○	○	
賛助会員	有限会社鉄道フォーラム	石井知之	○	○	○	貨
賛助会員	株式会社片上鉄道	森岡直子	○	○	○	貨
友の会会員	乗物愛好家	岩野弘一	○	○	○	貨
友の会会員	WATTRAIN理事	小田恭一	○	○		
友の会会員	JR四国宇和島ステーション開発株式会社	加藤圭哉	○	○	○	
友の会会員	トラベルライター	白川 淳	○	○	○	明
友の会会員	日本ナショナルトラスト会員	橘 秀幸	○	○	○	貨
友の会会員	西武トラベル社長	西尾恵介	○	○		
友の会会員	交通道德協会	水野弥彦	○			
オブザーバー	財団法人日本ナショナルトラスト会員	谷口直人	○	○	○	
オブザーバー	財団法人日本ナショナルトラスト会員	長野光芳	○	○	○	明
オブザーバー	四国鉄道文化館サポーター	藤本雅之	○	○	○	
オブザーバー	産業考古学会会員	佐々木雅子	○	○		
オブザーバー	NHKグローバルメディアサービス エグゼクティブプロデ	浅井 裕	○	○	○	明
オブザーバー	名古屋市教育委員会	竹内宇哲	○	○	○	
オブザーバー	名古屋市教育委員会	畠山明久			○	○
オブザーバー	公益社団法人長浜市観光協会 事務局長	清水義康	○	○	○	明
オブザーバー	株式会社日本旅行	瀬端浩之	○	○	○	貨
オブザーバー		根市和典	○	○	○	
オブザーバー	日本鉄道保存協会	田中光一	○			

日本鉄道保存協会加盟団体名簿 1

- 01 遠軽町（旧丸瀬布町）
099-0203 北海道紋別郡遠軽町丸瀬布中町 115-2
遠軽町役場丸瀬布総合支所産業課観光係
Tel 01584 7 2213 Fax 01584 7 2128
町長 佐々木修一
支所長 工藤敏弘
係長 小山信芳
- 02 陸別町商工会
089-4300 足寄郡陸別町字陸別原野基線 69-1
Tel 0156 27 3161 Fax 0156 27 2752
副会長 山本周二
- 03 NPO 法人ひがし大雪アーチ橋友の会
080-1408 北海道河東郡上士幌町上士幌東 3 線
Tel 01564 2 3385 Fax 01564 2 3682
会長 那須襄太郎
事務局長 角田和久
- 04 三笠市
068-2192 三笠市幸町 2
三笠市役所経済建設部商工観光課商工観光係
Tel 01267 2 3997 Fax 01267 2 7880
市長 小林和男
主事 伊東真一
- 05 三菱大夕張鉄道保存会
069-0855 江別市大麻宮町 4-6-502 Tel 011 387 4783
会長 奥山道紀
事務局 今井一郎
- 06 北海道旅客鉄道株式会社
060-8644 札幌市中央区北 11 条西 15 Tel 011 700 5785 Fax 011 700 5786
運輸部運用車両課副課長 内藤正浩
- 07 NPO 法人北海道鉄道文化保存会
047-0041 小樽市手宮 1-3-6 小樽市総合博物館内
Tel & Fax 0134 23 1674
理事長 飯田勝幸
常務理事 清水道代
- 08 磐越西線 SL 運行推進協議会
965-0816 福島県会津若松市南千石町 6-5 会津若松商工会議所
Tel 0242 27 1212 Fax 0242 27 1207
会長 小野隆市
事業推進課長 一ノ瀬 善弘
- 09 真岡線 SL 運行協議会
321-4305 栃木県真岡市荒町 5203
Tel 0285 82 9151 Fax 0285 82 9152
会長（真岡市長）井田 隆一
事務局長 板口敏一 局長補佐ふるさと振興係 中山文行
- 10 碓氷峠交流記念財団「碓氷峠鉄道文化むら」
379-0301 群馬県安中市松井田町横川 407-11
Tel 027 380 4163 Fax 027 380 4111
理事長 上原有一
館長 高橋 寛
- 11 日本工業大学
345-8501 埼玉県埼玉郡宮代町学園台 4-1 Tel 0480 34 4111
工業技術博物館 Tel 0480 33 7545 Fax 0480 33 7570
館長 松野建一 講師・学芸員 丹治 明

日本鉄道保存協会加盟団体名簿 2

- 12 秩父鉄道株式会社
360-0033 熊谷市曙町 1-1 Tel 048 523 3609 Fax 048 526 0051
代表取締役社長 荒船重敏
運輸課長 関口恒男
- 13 西武鉄道株式会社
359-8520 所沢市くすのき台 1-11-1 Tel 04 2926 2283 Fax 04 2926 2239
代表取締役社長 白山進
車両課長 藤澤利之
- 14 公益財団法人東日本鉄道文化財団
151-8578 渋谷区代々木 2-2-2 JR 東日本本社ビル 11 階
Tel 03 5334 0623 Fax 03 5334 0624
理事長 大塚陸毅
企画部担当部長 高橋政弘
- 15 東武博物館（財団法人東武鉄道共助会）
131-0032 東京都墨田区東向島 4-28-16
Tel 03 3614 8811 Fax 03 3614 8814
館長 花上嘉成
管理課長 田口隆
- 16 財団法人日本ナショナルトラスト
102-0083 東京都千代田区麹町 4-5 海事センタービル 4 階
Tel 03 6380 8511 Fax 03 3437 1190
会長 大塚陸毅
事業課 會田千春
- 17 公益財団法人交通協力会
102-0083 千代田区麹町 6-6 麹町東急ビル 7 階
Tel 03 3239 6641 Fax 03 3239 6642
理事長 菅建彦
事務局 高橋昭夫
- 18 上松町
399-5603 長野県木曽郡上松町駅前通り 2-13 上松町役場
Tel 0264 52 2001 Fax 0264 52 1038
町長 田上正男
産業観光商工観光係長 織田浩市
- 19 虹の郷（財団法人伊豆市振興公社）
410-2416 静岡県伊豆市修善寺 4279-3
Tel 0558 72 7222 Fax 0558 72 7133
理事長 鈴木健範
園内交通課 小川和博
- 20 大井川鐵道株式会社
428-8503 島田市金谷 1112-2 Tel 0547 45 4111 Fax 0547 45 4115
代表取締役社長 伊藤秀生
鉄道部長 川本吉彦
- 21 東海旅客鐵道株式会社
455-0848 名古屋市湊区金城ふ頭 3-2-2 リニア・鉄道館
代表取締役社長 山田佳臣
副館長 天野満宏
- 22 博物館明治村（財団法人明治村）
484-0000 愛知県犬山市宇内山 1 番地 Tel 0568 67 0314 Fax 0568 67 0358
館長 鈴木博之
マネージャー 鈴木智久
- 23 貨物鐵道博物館
510-8014 四日市富田 3-22-83 三岐鐵道本社内 Tel 059 364 2141
館長 清水武
理事 北川潤

日本鉄道保存協会加盟団体名簿 3

- 24 西日本旅客鉄道株式会社
530-8341 大阪府大阪市北区芝田 2-4-24 代表取締役社長 佐々木隆之
Tel 06 6375 8513 Fax 06 6376 6053
広報部課長代理 奥山喜文
- 25 財団法人交通文化振興財団
552-0001 大阪市港区波除 3-11-1 交通科学博物館内 理事長 佐々木隆之
Tel 06 6581 5771 Fax 06 6584 1309 専務理事・館長 守屋實
課長 高井洋文
- 26 加悦 SL 広場（宮津海陸運輸株式会社）
629-2422 京都府与謝郡与謝野町滝 941-2 代表取締役社長 山崎重信
Tel 0772 42 3186 Fax 0772 43 0080
管理部 課長 柴田万喜成
- 27 NPO 法人加悦鐵道保存会
629-2403 京都府与謝郡与謝野町加悦 433 旧加悦駅舎 加悦鐵道資料館
Tel & Fax 0772 43 0232 理事長 吉田博一
事務局次長 荒川泰昌
- 28 ふるさと鐵道保存協会
674-0051 明石市大久保町大窪 818-3 中井健二方 理事長 笹田昌宏
Tel & Fax 078 935 2867 副理事長兼本部事務局長 中井健二
- 29 片上鐵道保存会
733-0813 広島市西区己斐中 3-26-14 代表幹事 森岡誠治
Tel 080 3541 5552 Fax 082 507 203
- 30 若桜駅を元気にする会
680-0792 鳥取県八頭郡若桜町若桜 801-5 若桜町企画財政課 会長 藤原源市
Tel 0858 82 2231 Fax 0858 82 0134 課長補佐 竹本英樹
- 31 NPO 法人市民文化財ネットワーク鳥取
680-0022 鳥取市西町 1-106 理事長 渡辺一正
Tel 0857 26 1151 Fax 0857 22 4103
事務局長 太田縁
- 32 馬路村
781-6202 高知県安芸郡馬路村魚梁瀬 馬路村役場魚梁瀬支所
やなせ森林鐵道運営委員会 村長 上治堂司
Tel 08874 3 2211 Fax 08874 3 2208
魚梁瀬支所長 五藤寿史
- 33 山口線 SL 運行対策協議会
753-8501 山口市滝町 1-1 山口県商工労働部観光交流課 会長 金澤卓雄
Tel 083 933 3170 Fax 083 933 3179 観光交流課主事 片山隆広
- 34 九州旅客鐵道株式会社
812-8566 福岡市博多区博多駅前 3-25-21 代表取締役社長 唐池恒二
Tel 092 474 2541 Fax 092 474 3898
広報室長 山下信二

日本鉄道保存協会賛助会員名簿

- 01 株式会社ネコ・パブリッシング (Rail Magazine 編集長 名取紀之)
152-8545 東京都目黒区碑文谷 4-21-13 Te1 03 5723 6009 Fax 03 5723 6015
- 02 株式会社鉄道ジャーナル社 (編集長 宮原正和)
102-0072 東京都千代田区飯田橋 4-8-6 日産ビル 3F
Te1 03 3264 1891 Fax 03 3265 3597
- 03 日本鉄道写真作家協会 (会長 猪井貴志)
102-0072 東京都千代田区飯田橋 3-4-3 エレガンス飯田橋 504
レイルマンフォトオフィス内 Te1 03 3221 0271 Fax 03 3221 0272
事務局長 中井精也
- 04 北陸重機工業株式会社 (取締役会長 霜鳥勝徳)
950-0871 新潟県新潟市山木戸 7-3-69 Te1 025 274 3311 Fax 025 271 4812
営業課長 岩橋正人
- 05 株式会社 JTB パブリッシング (代表取締役社長 竹浪譲)
162-8446 新宿区払方町 25-5 Te1 03 6888 7845 Fax 03 6888 7876
編集制作本部企画出版部主査 大野雅弘
- 06 けいてつ協会 (代表 岡本憲之)
321-1511 栃木県日光市足尾町松原 12-5 Tel & Fax 0288 93 3403
- 07 有限会社鉄道フォーラム (代表取締役 伊藤博康)
484-0085 愛知県犬山市西古券 57 Te1 0568 62 9603 Fax 0568 61 6310
- 08 株式会社片上鉄道 (代表取締役 森岡直子)
733-0813 広島市西区己斐中 3-26-14 Tel 080 3541 5552 Fax 082 507 2035

日本鉄道保存協会友の会会員 (五十音順)

岩野弘一、小田恭一、可知博道、加藤圭也、倉繁聡、白川淳、橘秀幸、田中光一、
種村直樹、西尾恵介、星晃、星匠、水野弥彦

日本鉄道保存協会規約

(名称)

第1条 この会の名称は、日本鉄道保存協会（以下「協会」という）とする。

(目的)

第2条 協会は、歴史的鉄道車両、構造物、建物等を保存している団体が集い、相互に情報を交換し、将来にわたる保存・活用を推進することを目的とする。

(会員)

第3条 協会は、正会員たる加盟団体および賛助会員をもって構成する。

(会議)

第4条

1. 協会の会議は、総会および幹事会とする。
2. 総会は年1回開催するものとし、必要のつど臨時に開催することができる。

(役員団体)

第5条

1. 協会に代表幹事団体1団体、幹事団体2団体、会計監事団体2団体を置く。
2. 代表幹事団体、幹事団体、会計監事団体は、加盟団体の互選により選出する。
3. 代表幹事団体は、協会を代表し会務を総理する。
幹事団体は、総会その他会務の執行に関する重要事項を協議する。
会計監事団体は、協会の会計を監査する。
4. 役員団体の任期は2年とし、重任を妨げない。

(顧問)

第6条 協会に顧問を置く。顧問は、総会において代表幹事団体が推薦し、任期は2年とし、重任を妨げない。

(友の会)

第6条の2

1. 協会に日本鉄道保存協会友の会（以下「友の会」という）を設置し、協会の活動を支持する個人をもってその会員とする。
2. 友の会会員は総会に出席することができる。但し議決権を有しない。

(事務局)

第7条 協会の事務局は、代表幹事団体に置く。

(会費)

第8条

1. 協会の経費は、正会員、賛助会員および友の会会員が拠出する会費、並びに寄付金により賄う。
2. 年会費の額は、正会員12,000円、賛助会員12,000円（1口）、友の会会員3,000円とする。
3. 会計年度は、4月1日から翌年3月31日までとする。

(規約の改正)

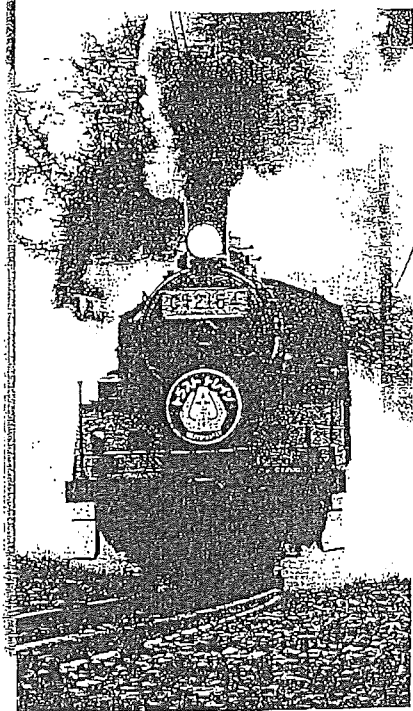
第9条 この規約の改正は、総会の議決によらなければならない。

付則 この規則は、平成3年4月1日から施行する。

総会の運営方法

原則として加盟団体が輪番制とし、開催に際しては、代表幹事団体および幹事団体ならびに開催場所の団体が協同して行う。

平成 3年 4月 1日施行
平成 6年 8月10日改正
平成16年 9月10日改正
平成20年10月 2日改正



▲Tトレイン (同 渡辺一男氏)

〔組 織〕

(会費)

正会員(動態保存団体)10,000円
賛助会員(一般)1000,000円以上

事 務 局

日本ナショナルトラスト
〒100 千代田区丸の内2-4-1丸ビル414
Tel 03-3214-1263(代)

顧 問

青木栄一(東京学芸大学教授)
小池 滋(東京女子大学教授)
松澤正二(前交通博物館副館長)

会 計 幹 事 団 体

財団法人博物館明治村
九州旅客鉄道株式会社

代 表 幹 事 団 体
幹 事 団 体

日本ナショナルトラスト
大井川鉄道株式会社
丸瀬布町

日本鉄道保存協会正会員

(1991.4.1現在)

(団体名)(保存車両)

①丸瀬布町
(森林鉄道雨の宮21号蒸気機関車)

②三笠鉄道記念館
(S 394号SL)

③北海道鉄道文化協議会
(C 62 3号SL・SLニセコ号)

④甕れSLC10-8 運営協議会
(C10 8号SL)

⑤ウエスタン村
(15321 ワウバウ号SL)

⑥埼玉県北部観光振興財団
(C 58 363号SL他・パレオ
エクスプレス)

⑦日本ナショナルトラスト
(C12 164号SL他・トラスト
トレイン)

⑧上松町
(森林鉄道86号ディーゼル機関車他)

⑨虹の郷
(アーネスト・トワイニング号SL他)

⑩大井川鉄道
(C11 227号SL他・かわね路号)

⑪財団法人明治村
(尾西鉄道12号SL他)

⑫東海旅客鉄道株式会社
(クモハ12形電車他)

⑬なつかしの尾小屋鉄道を守る会
(尾小屋鉄道気動車 121号他)

⑭九州旅客鉄道株式会社
(58654号SL)

発行してきた。

る。ただ、初めてのこともあり、一気に設立では無理があるので、一年間は、「日本鉄道保存協会準備会」を仮に設け、試し運転とばかり、お互いの交流や情報の交換を行うとともに、手づくりの会報も

存を推進することを目的とした「日本鉄道保存協会」の設立だったのである。一般に言われる文化財においては、歴史的町並みや民家等を中心に歴史的景観を保全する行政の集まりである歴史的景観都市連絡協議会、歴史的庭園の所有・管理者で構成する文化財指定庭園保護協議会、住民運動の集まりである全国町並み保存連盟などいくつかの連絡協議会的なものも機能している。こう見ると鉄道文化財と言う以上、同じような場をつくることは当然の成り行きであったと言える。ただ、初めてのこともあり、一気に設立では無理があるので、一年間は、「日本鉄道保存協会準備会」を仮に設け、試し運転とばかり、お互いの交流や情報の交換を行うとともに、手づくりの会報も

そして、昨年十月十四日の鉄道記念日に合わせ、大井川鉄道で同会の総会を開催。正式に平成三年四月から「日本鉄道保存協会」を設立し、活動を開始することを決定したのである。

◎末永く、楽しく動態保存を推進

現在、正会員は、予定も含め一二団体である。鉄道会社もあれば、公益法人、行政、住民運動団体とバラエティーにとんでいる。しかし将来にわたる動態保存をめざす意気込みは皆同じで、大きな夢も合わせ持っていることも確かだ。お互い単独で活動しては、どうしても弱い。特に資金・技術面は重要な問題となる。例えば、整備要員の育成、部品の確保など現実的な悩みも多いと聞く。記念イベント後の関係者の懇親会では、早くも各団体の担当者がかなり突っ込んだ技術面での話し合いをしている。

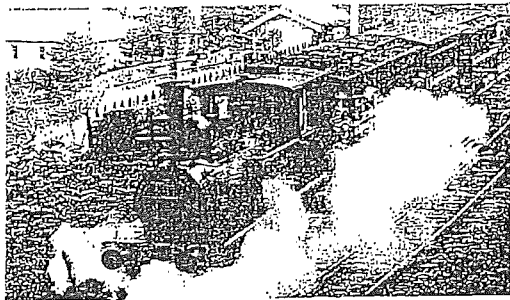
今後は、毎年総会を行うとともに、定期的に会報を発行し、また、多くの支援者を得るための啓蒙的な楽しいイベントの開催のほか、特にセミナー的な勉強の場も設けたい。さらに、先輩格の英国保存協会とも交流を考えている。まだまだ小さな輪が出来あがったばかりであるが、それこそ夢を乗せて走る歴史的鉄道車両の将来にわたる保存・活用をめざしたい。常に楽しさを忘れずに……。

日本鉄道保存協会の 設立について

財団法人観光資源保護財団
(日本ナショナルトラスト)

事業課長 米山淳一

▲明治村 (同 貴 棕生氏)



▲設立総会、壇上に並ぶ関係者 (撮影 伊藤栄一氏)

「鉄道ルネッサンス」とやらで鉄道が交通輸送の有効手段として見直され、次々に新しい車両が生まれ、若い女性の間でも話題になっているという。また一方では、鉄道近代化の波の中で消えていったSLの復活運転も華やかにマスコミにざわしてあり、これに伴い歴史的な車両・施設・構造物への関心が高まりつつある。まさに、「鉄道復権」の動きがさまざまなかたちで輝き始めている。

このような情勢の中、去る四月九日、日本鉄道保存協会が設立された。これは全国各地でSL、旧型客車、電気機関車、ディーゼル車他、歴史・文化的価値の高い車両を動態保存している団体が寄り集まって設立された、連絡協議会的性格を重視した団体である。モデルはイギリスの保存協会で、将来にわたる動態保存を進める上で今後重要な役割を担うことになる。

当日は、日ごろから熱心に動態保存を進める一二団体が全国から参加し、東京ステーションホテルで設立総会を開催、同協会の設立目的、性格、規約、役員の選出等が話し合われ、無事終了し設立の運びとなった。設立総会終了後は、お披露目を兼ねた記念イベントとして「夢を乗せて走る歴史的鉄道車両」を開催。講演、参加団体の紹介、映画の上映を行

い会場から大きな激励を受けた。

◎設立までの経緯

明治村を先駆者とし、当トラストも含め、全国各地で鉄道を文化財の視点として、観光資源として保存・活用している事例が増えつつある。しかし、鉄道車両の保存は、鉄道に深い関心のある方々だけの趣味の世界にとらわれがちであるのも事実である。「鉄道文化財の保存」とあると主張しても、まだまだ一般に言われる文化財のように市民権を得ているわけではない。確かに近代技術の発達史上においても鉄道は常にその時代の先端技術の集積という見方もあり、産業文化遺産のひとつであるという指摘がなされているにもかかわらずなのである。

このような状況の中で、全国で芽ばえ始めた動態保存が単に趣味的に終わってはいけないということで、一昨年二月九日に、当トラストが主催し第二回鉄道文化財を考えるシンポジウムを東京で開催した。この時点でも多くの動態保存の事例が見られ、北は急行ニセコ号C623号の北海道鉄道文化協議会から、南はあそBoyの58654号のJR九州まで一二団体が参加したのである。大きな反響を呼んだことは言うまでもないが、このシンポジウムの提案として出されたのが各団体が手をつなぎ将来にわたる動態保

団 体 名	遠 軽 町	連絡先 〒099-0203 北海道紋別郡遠軽町丸瀬布中町 遠軽町丸瀬布総合支所産業課																
 <森林鉄道雨宮21号> 雨宮号は昭和3年、東京の雨宮製作所で製造された機関車で3台が部品のまま輸送され丸瀬布で組み立てられました。その後、雨宮製作所では機関車の製造を中止したため、道内に導入された雨宮号はこの3台だけとなっています。 機関車には道庁が導入した順に番号が付けられ、丸瀬布の雨宮号は18・19・20号となりました。 雨宮19・20号は昭和3年9月に、18号は昭和4年5月に完成し、19号は昭和4年5月6日、20号は同年6月16日、18号は昭和5年6月11日に輸送が開始されましたが、18号は13日稼動しただけで配置変えとなりました。 しかし、経済性や山火事防止の観点から、丸瀬布にも昭和26年に2台のディーゼル機関車が導入され、蒸気機関車は昭和33年12月末日までに配車とすることになりました。 ちなみに、機関車の番号は昭和24年度から営林局ごとの番号に改められ、雨宮19号は21号となりました。 この間、雨宮21号は昭和32年に危うくスクラップを免れ、昭和36年5月13日「サヨナラ運転」と格納式が行われ、営林署で保存の道が取られました。 その後、雨宮21号は昭和51年に営林局から町へ譲渡され札幌で復元整備し昭和54年5月15日いこいの森に新築された機関庫に格納され、翌16日、22年ぶりに「ぼーっ」という汽笛を響かせ試運転が行われました。その間に客車や貨車を購入し、昭和56年には8の字の一周軌道も完成し、昭和57年5月1日より「森林鉄道の走る緑と溪谷のマチ」として動態保存されています。																		
<特別企画> <table><tr><td>4／29～5／2</td><td>雨宮21号+井笠客車（2輛）と DL 機関車+木曾森林客車との同時運行</td></tr><tr><td>5月14日</td><td>雨宮21号夜桜撮影会</td></tr><tr><td>7月2日</td><td>武利意森林鉄道廃線跡を歩く会</td></tr><tr><td>8月6日</td><td>ミッドナイト・ラン（車輦に電飾を施し4便運行）・雨宮号花火撮影会</td></tr><tr><td>9月10日</td><td>お月見列車運行・夜間撮影会</td></tr><tr><td>9月17～19日</td><td>雨宮21号+井笠客車（2輛）と DL 機関車+木曾森林客車との同時運行</td></tr><tr><td>9月23～25日</td><td>〃</td></tr><tr><td>9月25日</td><td>武利意森林鉄道廃線跡を歩く会</td></tr></table>			4／29～5／2	雨宮21号+井笠客車（2輛）と DL 機関車+木曾森林客車との同時運行	5月14日	雨宮21号夜桜撮影会	7月2日	武利意森林鉄道廃線跡を歩く会	8月6日	ミッドナイト・ラン（車輦に電飾を施し4便運行）・雨宮号花火撮影会	9月10日	お月見列車運行・夜間撮影会	9月17～19日	雨宮21号+井笠客車（2輛）と DL 機関車+木曾森林客車との同時運行	9月23～25日	〃	9月25日	武利意森林鉄道廃線跡を歩く会
4／29～5／2	雨宮21号+井笠客車（2輛）と DL 機関車+木曾森林客車との同時運行																	
5月14日	雨宮21号夜桜撮影会																	
7月2日	武利意森林鉄道廃線跡を歩く会																	
8月6日	ミッドナイト・ラン（車輦に電飾を施し4便運行）・雨宮号花火撮影会																	
9月10日	お月見列車運行・夜間撮影会																	
9月17～19日	雨宮21号+井笠客車（2輛）と DL 機関車+木曾森林客車との同時運行																	
9月23～25日	〃																	
9月25日	武利意森林鉄道廃線跡を歩く会																	
1. 運 行 日	平成23年4月29日から10月23日までの土・日・祝日 ※ゴールデンウィーク・夏休み期間は毎日運行																	
2. 運行時間	午前10時から30分毎に午後4時30分まで																	
3. 運行区間	遠軽町丸瀬布上武利 森林公園いこいの森園内一周約2km																	
4. 乗車料金	大人 500円 小人 250円																	

団体名



〒 089-4300

北海道足寄郡陸別町字陸別原野基線 6 9 番地 1

Tel : 0156-27-2244 Fax : 0156-27-2791

URL <http://business4.plala.or.jp/rikutetu/>

Email ginga@bz01.plala.or.jp

【営業期間】

4 月下旬～10 月下旬

【気動車乗車体験】

CR75（銀河鉄道 999 ラッピング列車）を使用し運行しています。

料金：中学生以上 300 円・小学生 200 円・小学生以下無料

【トロッコ乗車体験】

足こぎ式を利用し 250m 区間を 2 往復程度

料金：中学生以上 300 円・小学生 200 円・小学生以下無料

【気動車運転体験】

CR70・75 型を使用し、運転士指導の下で運転していただくコースです。

（S コース）

女性の方でも簡単に体験できます。

料 金：2000 円

対 象 者：小学校高学年以上身長 130 cm 以上

体験運転：約 15 分間（運転・説明）



平成 23 年 9 月 18 日

（L コース）

1 週間前完全予約制

予約方法：E メールまたは電話予約

料 金：20000 円

体験時間：約 80 分間（講習・出区点検・運転）

平成 23 年度事業経過

平成 24 年度より金澤踏切～松浦踏切間の 1.3 km の営業運行が陸別町より認可され、7 月 24 日と 9 月 18 日に試験走行を兼ねて体験乗車会が無料で行われました。

前年度よりの調査、点検で運行は支障なく無事終了しました。廃線前と変わらぬ風景を懐かしむ人々で大変好評でした。今後、体験運転・体験乗車に向けてのシステム作りが検討されます。



川上駅まで点検運転



踏切通過



仮乗降場



車内の様子

おとふけがわ

第三音更川橋りょうを後世に残そう！

皆様から補修にかかる費用を募ります！

■NPO法人ひがし大雪アーチ橋友の会

〒080-1408

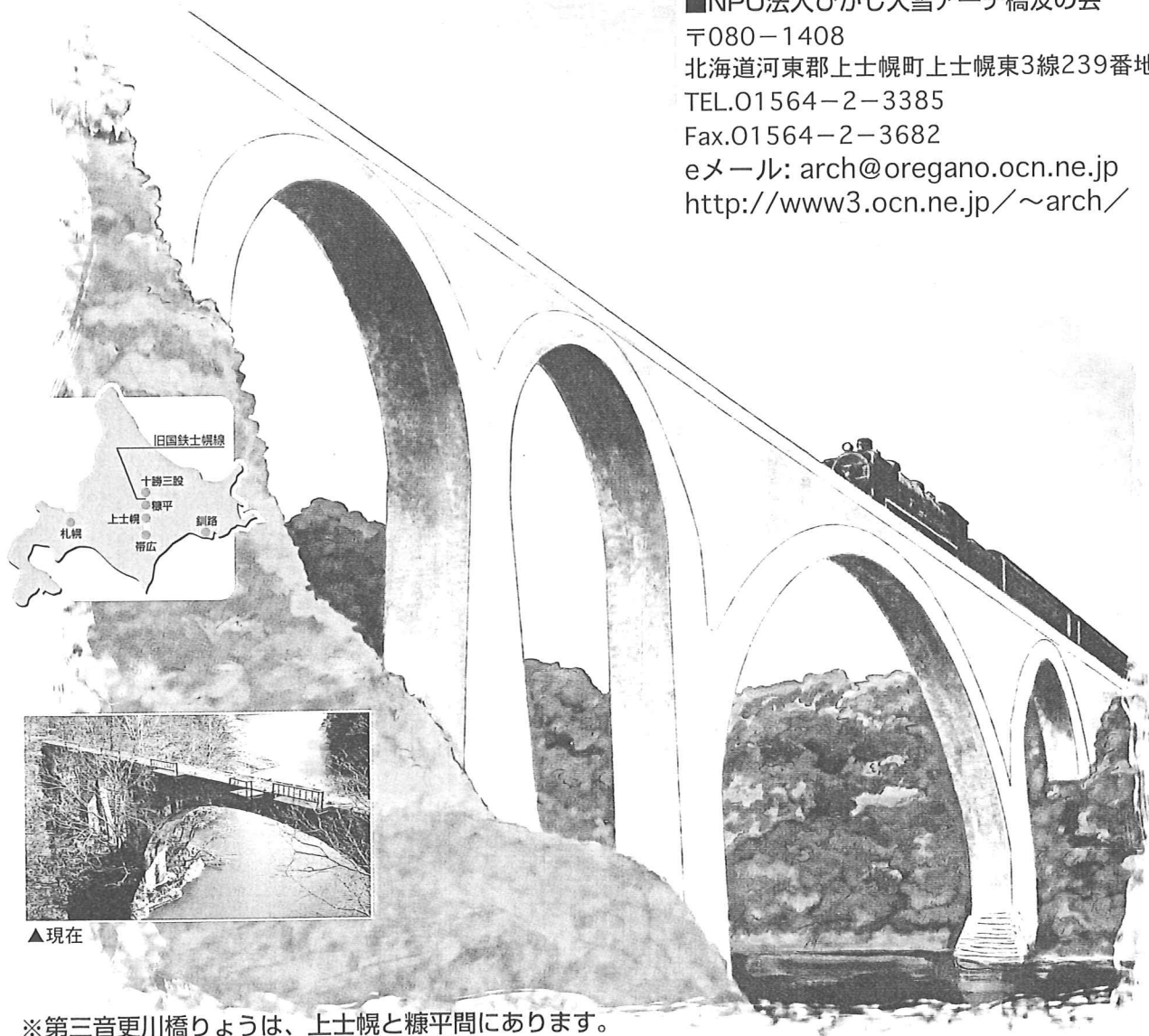
北海道河東郡上士幌町上士幌東3線239番地

TEL.01564-2-3385

Fax.01564-2-3682

eメール: arch@oregano.ocn.ne.jp

http://www3.ocn.ne.jp/~arch/



※第三音更川橋りょうは、上士幌と糠平間にあります。

「大雪山に登って、山岳の大(おお)いさを語れ」といわれた大雪山の東麓に、1930年代に建設された北海道開拓の歴史を今に伝える産業遺産「ひがし大雪コンクリートアーチ橋りょう群」があります。

そのなかでも、黒石平の泉翠橋に架かる第三音更川橋りょう(国登録有形文化財)は、全国的にも、ひとまたぎが30mを超える鉄筋コンクリートを使用した大規模鉄道橋の初期のものであり、建設コスト軽減や自然景観への配慮を進めたことから建設技術上高く評価され、北海道内の同様な鉄道橋のお手本となりました。

しかし、建設から70年以上が経過し、あちらこちらで劣化が目立つようになってきており、歴史的な価値を損なわずに、こ

れ以上劣化を進めないため防水工事等が必要となりましたが、調査の結果、それには数千万円という多額の費用がかかることがわかりました。

そこで、私たちは、この貴重な産業遺産を次の世代に引き継ぐために、市民の力で行政とパートナーシップをとりながら、保全のための工事に向けて取り組みを始めました。

第三音更川橋りょうが保全されることで、周辺の他のアーチ橋りょう等の鉄道遺産を含めた利活用が一層進み、産業遺産を通じた地域の活性化が図られるとともに、今回のノウハウが他のアーチ橋や全国の同様な遺産の保全に役立つことになると考えています。

主催：NPO法人ひがし大雪アーチ橋友の会

団 体 名	三 笠 市	〒068-2192 三笠市幸町2番地 三笠市役所商工観光課 TEL 01267-2-3997 FAX 01267-2-2145 URL http://www.city.mikasa.hokkaido.jp/
施 設 名	三笠鉄道村	〒068-2145 三笠市幌内町2丁目 TEL 01267-3-1123 FAX 01267-2-6965 URL http://www.s-304.com/

三笠鉄道記念館では、北海道鉄道開拓時代から旧国鉄時代に活用されていた貴重な鉄道関連品を展示しています。動体保存されている蒸気機関車 S-304 号は、1939 年に日本製鉄輪西製鉄所（後の新日本製鐵室蘭製作所）向けに作られた産業用機関車です。

■ S L 運行（乗車 1 回 2 0 0 円）

運行日……… 4 月 1 6 日から 1 0 月 1 5 日までの土・日・祝日

※ 7 月下旬～ 8 月中旬までの夏休み期間は、休館日を除き毎日運行。

土曜……… 1 2 : 0 0 始発～ 1 6 : 0 0 発最終

日曜・祝日… 1 0 : 0 0 始発～ 1 6 : 0 0 発最終

※ 3 0 分毎の発車です。1 2 : 3 0 発の便のみありません。



■ S L 機関士運転体験

三笠鉄道村では、蒸気機関車 S-304 号の運転体験ができます。

村内の幌内鉄道 350m を 1 往復。3 分足らずのわずかな時間ですが、気分は S L 機関士そのものです。関東や九州からの参加者もあり、会員は 300 人を超えました。昨年度より引き込

み線が 100m 延長となりました。

（詳しくはホームページをご覧ください）

■ 三笠トロッコ鉄道

幌内線の廃線 2.5 km を活用し、平成 22 年 4 月から運行を開始したトロッコ鉄道は今年も大勢のお客様に利用されており、人気のある施設です。今後は鉄道記念館と直接アクセスできるよう検討をして参ります。

（URL→<http://www.karamatsu-train.co.jp/mikasa/mtr.html>）



■ 鉄道村イベント

今年も 5 月のゴールデンウィークの他、夏休みイベント、秋のイベントを計 3 回実施しています。

鉄道戦隊ぼっぼレンジャーとのタイアップや、ミニ新幹線などの乗り物好調で、お子様連れのご家族など、楽しいひと時を過ごしました。



■ パンフレットのリニューアル

長年、使用していましたパンフレットを一新し、鉄道村のシンボリック存在の S-304 号をモデルにし切り抜くと機関車の形になるよう工夫を凝らしました。

■ 車両塗装

鉄道村の幌内ゾーン（記念館側）と三笠ゾーン（クロフォード公園）に展示されている車両の塗装を行いました。

原色に忠実に再現し、綺麗な状態に生まれ変わりました。

■ ホームページでの P R

平成 18 年度にホームページを開設し、施設紹介等の掲載はもちろんのこと、三笠鉄道村スタッフ（さとぽん）のブログやイベント情報など随時更新しています。また、S L 機関士運転体験の参加申し込みなどもホームページから可能です。（URL→<http://www.s-304.com/>）

三菱大夕張鉄道保存会	連絡先 事務局 068-0855 江別市大麻宮町 4-6-502 今井方 011-387-4783 http://www.geocities.jp/ooyubari_rps/index.html
○三菱大夕張鉄道について 三菱大夕張鉄道は明治 44(1911)年に大夕張炭坑の専用鉄道として清水沢～二股間(後の南大夕張)が開通、その後炭鉱の北部移転に伴い、南大夕張～通洞間(後の大夕張炭山)が延長された。 昭和 14(1939)年には地方鉄道に改組され、大夕張炭鉱の他、沿線の中小炭鉱の石炭輸送、森林鉄道で運び出された本材輸送など、沿線の開発に大きな貢献をした。また、道路が未整備であった昭和 30 年代後半までは、地域住民の貴重な足でもあり、昭和 62(1987)年に南大夕張炭鉱の合理化で鉄道が廃止されるまで残された「石炭ストーブ列車」は夕張の冬の風物詩でもあり住民等に親しまれていた。 ○三菱大夕張鉄道保存会の活動 鉄道廃止後、最終日の編成のままの客車・貨車などが南大夕張駅跡に残された。平成 2(1990)年には南大夕張炭鉱が閉山、保存・公園化を前提として車両が夕張市へ譲渡された(正式譲渡は平成 19 年)。 公園化が具体化しないまま平成 11(1999)年には客車 1 両が積雪により転覆したが、市民や出身者などを中心として三菱大夕張鉄道保存会が発足、夕張市へ保存を求めると共に修復活動開始し、12 月には夕張市により客車の転覆復旧工事が実施された。 その後当会により補修作業が本格化し、平成 13(2001)年には三菱大夕張鉄道の車両を含む空知管内の炭鉱遺産が「北海道遺産」として認定された。平成 17(2005)年には、夕張市によりシュエーパロダム周辺整備計画の一環として「南大夕張列車公園」計画が発表、住民説明会も実施されたが翌 18(2006)年には財政破綻が表面化。公園計画は事業見直しにより凍結された。平成 19(2007)年には旧南大夕張駅と保存車両が経済産業省により、近代化産業遺産として認定された。 一方、財政破綻により、夕張鉄道や三菱大夕張鉄道の S L や関連資料を保存する、石炭の歴史村・S L 館も閉鎖され、貴重な車両・資料の解体・散逸も懸念される状態にある。旧南大夕張駅については保存車両の補修に加え、補助金等を活用してホーム補修も進めているが、S L 館保存の車両・資料についても、鉄道遺産利活用シンポジウム等を開催して、地域独自の鉄道遺産として地域再生に活用出来るよう活動を展開しますので、ご協力をお願いします。	 
主な活動内容 ○保存車両公開 4 月下旬～11 月中旬(月 1 回程度の補修活動)・グッズの頒布 ○汽車フェスタ 9 月下旬 ○S L 館雪下ろしバスツアー 2 月上旬 ○S L 館公開や廃線跡探訪などを組み合わせたバスツアー、鉄道遺産活用シンポジウムなどの企画・開催 夕張市での連絡先 夕張市南部新光町 42 金澤洋行(保存会顧問) 0123-55-2318	

団 体 名	北海道旅客鉄道株式会社	鉄道事業本部 運輸部 運用車両課 〒060-8644 北海道札幌市中央区北 11 条西 15 丁目 TEL 011-700-5785 FAX 011-700-5786
--------------	--------------------	---

36 年ぶり！ オホーツク海沿いに SL オホーツク号運行！

弊社では、平成 11・12 年に C11 形蒸気機関車 2 両(C11 171、C11 207)を復元し、一年を通じて北海道の大自然や文化・歴史を堪能していただける各種観光・イベント列車として運行しています。

今年度も各方面で SL 運行を計画していますが、去る 7 月 2 日・3 日には、石北本線・釧網本線の北見～知床斜里間で、オホーツク海沿いでは実に 36 年ぶりとなる SL 運行を行いました。その雄姿を一目見ようと、またオホーツク海と SL を絡めて写真に収めようと、駅や沿線には地元の方をはじめ鉄道ファンが大勢詰め掛け大きな歓声が上がっていました。

C11 形蒸気機関車 2 両は、車齢も高く復元後も 10 年以上経過していますので、これまで以上にきめ細かなメンテナンスを行いながら今後も運行を継続させ、多くの皆様に満足していただき喜んでいただけるよう努めて参ります。

平成 23 年度 SL 列車運行計画

○SL 函館大沼号

函館本線(函館～森)

・4/29～5/8、7/14、7/16～18、7/23～24、
7/30～31、8/6～14

○SL オホーツク号

石北本線・釧網本線(北見～知床斜里)

・7/2～3

○SL とかち号

根室本線(帯広～池田)

・9/2～4

○SL ニセコ号

函館本線(札幌～蘭越)

・9/17～11/3 の土・日・祝日



【 SL オホーツク号 C11 207 】



【 SL ニセコ号 C11 171 】

○11月以降につきましても

「SL 冬の湿原号」等の運行を計画しています。

運行が決まりましたら、弊社ホームページに掲載しますのでご確認ください。

<http://www.jrhokkaido.co.jp/>

* 運転日は変更となる場合があります

NPO法人 北海道鉄道文化保存会

〒047-0041

北海道小樽市手宮 1 丁目 3 番 6 号
小樽市総合博物館内
TEL・FAX (0134)61-7777
URL: <http://www.tetsudo.in/>
mail: zeromile-hozonkai@tempo.ocn.ne.jp

小樽・手宮から北海道最初の機関車義経、弁慶が力強く走り出してから 130 年。
鉄道は北海道の開拓に大きな貢献を果たして参りました。
大切な鉄道文化の遺産を守り育て、そして後世に伝えていくことを目的として
次のような活動をしています。



NPO法人による小樽市総合博物館の展示車両の補修



鉄道遺産手宮の活性化にむけて
「手宮の歴史と未来を語る会」
シリーズ第 3 回手宮市場にて



小樽市総合博物館により委託された、ミュージアムコミュニケーター育成事業 (科学の祭典風景)



NPO法人北海道鉄道文化保存会発行の「ゼロマイルからの便り」第 4 号



全道の鉄道車両を保存している
団体によるフォーラム 2009

2011 年の事業

・車両補修

キ 752 除雪車 (ジョルダン車)
キ 718 除雪車 (ジョルダン車)
キロ 26-107 (有蓋緩急車)
DE10-503 (ディーゼル機関車)
DD51-615 (ディーゼル機関車)
オハフ 33-364

・ミュージアムショップ運営

・ミュージアムコミュニケーター育成活用事業

・鉄道遺産手宮の活性化に向けた事業

フォーラム「今、0 マイル起点から」開催 (2011 年 9 月 17 日)

団体名	真岡線 S L 運行協議会	〒321-4412 栃木県真岡市下籠谷 4 4 1 2 番地 TEL 0285(82)9151 FAX 0285(82)9152
-----	---------------	--



▲「S L もおか」乗車
70万人記念式典

「S L もおか」2011冬・運行日程

【運行日】	11月 3日・5日・6日・12日・13日・19日 20日・23日・26日・27日 12月 3日・4日・10日・11日・17日・18日 23日・24日・25日 1月 7日・8日・9日・14日・15日・21日 22日・28日・29日
【運行区間】	真岡鐵道 下館駅～茂木駅（41.9キロ）
【運行時間】	下り 下館駅10:37発～茂木駅12:02着 上り 茂木駅14:28発～下館駅15:57着
【運行車両】	S L C12形66号 C11形325号 P C オハ2両、オハフ1両 D L DE10 1535 1両

〔近況報告〕

◆5月21日「がんばろう日本！」震災復興・S L もおか運行再開イベント

・平成23年3月11日に発生した東日本大震災により、真岡鐵道も少なからず被害を受け、通常ダイヤへの復帰が普通列車は4月6日まで行えず、普通車両より重量の重いS Lはより慎重な安全確認を要したため、5月21日まで運行することができませんでした。

この運行再開イベントでは、当日運行する「C1266」が震災の影響で深刻な状況である福島県川俣町に静態保存されていたこともあり、福島県の被災者約70名を招待し、力強いS Lの旅を楽しんでいただきました。また、下館駅で行われた出発式では真岡線S L運行協議会会長の井田隆一真岡市長、堤義雄筑西市副市長とともに福島県いわき市から真岡市に避難していた佐藤佑君、ひよりちゃん兄妹により「がんばろう日本！S L もおか号」と書かれたヘッドマークが装着され、S L もおかは大きな汽笛を鳴らし運行再開をしました。

翌、5月22日には真岡駅にて地元商店会によるお囃子の演奏や模擬店、ジャンボウサギの一日駅長などの催しも行われました。



←ヘッドマーク装着式

◆S L もおか乗車70万人達成！

・おかげさまで平成6年3月から運行しているS L もおかが、平成23年8月27日、70万人目のお客様を迎え運行することができました。

記念すべき70万人目に乗車したお客様は東京都から来た高校生の女の子で、記念となったこの日は震災で大打撃を受けた益子町の観光を支援しようと町内会で企画した「震災復興支援ツアー」に家族で参加したとのことです。

当日は乗車70万人を記念してS L車内のお客様に真岡線沿線の特産品である梨をプレゼントし、また、真岡駅下り線ホームにて記念式典が行われ、真岡線S L運行協議会長である井田真岡市長よりお客様やS Lファンの方々に感謝の言葉が述べられました。



↑S L フェスタ（昨年度）の様子

◆平成23年12月11日、第2回真岡鐵道S L フェスタ開催！

・昨年度開催し好評を博した「真岡鐵道S L フェスタ」を今年も開催いたします！今年もボランティアによるS L教室や自作ヘッドマーク撮影会、今年の夏休みに募集した「真岡鐵道お土産コンテスト」の受賞作品の発表など、楽しいイベント盛りだくさんで沿線の方や真岡鐵道ファンの皆様のお越しをお待ちしております。

財団法人 碓氷峠交流記念財団 碓氷峠鉄道文化むら



住所／群馬県安中市松井田町横川 407-16

営業時間／3月～10月 9:00～17:00

11月～2月 9:00～16:30

(入園は閉園 30 分前まで)

休園日／毎週火曜日(8月を除く)・年末年始

トロッコ列車運行日／3月～11月までの土曜・日曜・祝日・8月の毎日 1日6往復運行

入園料金／大人 500 円・小学生 300 円



ED42形電気機関車

碓氷峠鉄道文化むらは群馬県の南西部に位置し、碓氷峠をはさんで長野県の軽井沢町と接しています。峠のシェルパEF63形機関車の基地であった旧横川機関区の跡地で、東京ドーム3.5個分のスペースがあります。

峠の鉄道の歴史は古く、明治の初めに東京～京都間を信越本線経由で結ぶと決定されましたが、明治19年にこの峠が難関のため東海道本線経由に変更された経緯のある所です。しかし、明治26年には日本で初のアプト式鉄道の採用で開通しましたが、11.2kmで標高差553mもあり、トンネル区間が多いため当時蒸気機関車の煙害防止のため、明治45年にこれまた日本初の電化区間となりました。

日本の鉄道技術の発展はこの峠から生まれたと言っても過言ではない線区でした。

時移り平成9年、長野オリンピックの開催を控えて、同年10月1日の長野新幹線の開業と同時に併行在来線として104年の歴史にピリオドを打ちました。旧機関区周辺は鉄道の街として発展してきましたが、廃止に伴う過疎化防止と地域経済の核として、群馬県・松井田町・JR東日本の協力により平成11年4月にオープンしました。

信越本線横川～軽井沢間(通称、碓氷線)は廃線後早14年が経とうとしており、廃線間際の熱気も潮が引くように静かになってしまいましたが、この廃線敷を使い近代化遺産第1号に指定されている、丸山変電所跡までの1.6kmをトロッコ列車が運行しています。

また日本で唯一のEF63形電気機関車の体験運転も約2,000人が受講を終わり、既にのべ20,500回の体験を楽しまれ、1人で600回の運転者も出現しております。

■問合せ先■

財団法人碓氷峠交流記念財団 碓氷峠鉄道文化むら

TEL 027-380-4163

FAX 027-380-4111

<http://www.usuitouge.com>

bunkamura@usuitouge.com



EF63 形電気機関車



屋外展示車両風景

団体名

日本工業大学 工業技術博物館

345-8501

埼玉県 南埼玉郡 宮代町 学園台 4-1

Tel. 0480-34-4111 (大学代表)

Fax. 0480-33-7570 (博物館直通)



製造されて120年、疾走する2109号蒸気機関車の勇姿

2011年の運転について

2109号蒸気機関車を、原則として8月と12月を除く毎月第3土曜日に定期有火運転し、一般に公開しております。左の写真にキャンパス内で運転中の様子を示します。

運転状況について

1993年9月に大井川鉄道より本学に寄贈され、8月と12月を除く毎月第3土曜日に定期有火運転を実施してきた。2007年度にボイラー煙管172本とステー管16本を交換するなどの大規模な修理を施し、また年に2度の洗缶作業を行って、動態保存を実施していたが、本年9月末に右側シリンダー部から激しい蒸気漏れが発生した。これらの故障箇所の修理を実施するために、本年10月より当面予定されていた有火運転は休止することとした。下記に平成23年度の有火運転実施日と今後の予定を示す。

平成23年度 2109号蒸気機関車 有火運転実施日

4月16日(土)	定期運転	(13:00~15:00)
5月21日(土)	定期運転	(13:00~15:00)
6月4日(土)	オープンキャンパス	(12:30~15:00)
7月16日(土)	定期運転	(13:00~15:00)
7月31日(土)	オープンキャンパス	(12:30~15:00)
9月17日(土)	オープンキャンパス	(12:00~15:00)

平成23年度 2109号蒸気機関車 有火運転の予定

シリンダー部の修理が完了するまで、有火運転は休止いたします。

これまでにお知らせいたしておりました、下記の運転予定日には、代わりにミニトレインを運転いたします。

10月15日(土)	(13:00~15:00)
10月22日(土)	オープンキャンパス (13:00~15:00)

その後の運転については、本学のホームページをご覧頂くか、当博物館に直接お問い合わせ下さい。

(平成23年10月1日現在)

団 体 名	秩父鉄道株式会社	〒360-0033 埼玉県熊谷市曙町 1 丁目 1 番地 TEL048-523-3822 fax048-526-0551
-------	----------	--



秩父鉄道のSL列車「パレオエクスプレス」は平成23年10月から全般検査入場となるため、本年の運行につきましては、10月10日（月/祝）がラストランとなります。

これに伴い、以降11月末までの間、ELによる12系客車牽引の各種イベント列車を9回程度運行予定としております。

また、来年の運行につきましては、4月21日（土）からの開始を予定しております。

1. 『ELちちぶ号』

運行区間 熊谷＝秩父駅

運 行 日 10月22日(土)、11月6日(日)、19日(土)、27日(日)

2. 『ELみつみね号』

運行区間 熊谷＝三峰口駅

運 行 日 10月29日(土)、30日(日)、11月12日(土)、13日(日)

3. 11月14日(月)の埼玉県民の日に合わせ、『EL埼玉県民の日号』を運行

『夏休みわくわく体験』



- ・今年も、恒例となった「夏休みわくわく体験」を7月26日に広瀬川原車両基地にて実施いたしました。工作体験を行った後、SL等工場内を見学いたしました。
- ・秩父鉄道では本年運行分のSL指定券・整理券の収益金の一部を東日本大震災被災者の皆様へ義援金として寄付いたします。5月1日(日)には「SL東日本復興支援号」としてヘッドマークを掲出し運転いたしました。



『東日本復興支援号』

団体名	西武鉄道株式会社 池袋線車両所 横瀬車両基地	連絡先 〒357-0063 埼玉県飯能市飯能937-1 池袋線車両所 武蔵丘車両基地
◇ 車両基地の概要 1970年（昭和45年）1月、西武秩父線開業を受け電気機関車・貨車専用基地として埼玉県横瀬町に開設。その後所沢検車区の支区となったが、1989年（平成元年）9月に所沢車両管理所の廃止により、業務を統合して横瀬車両管理所となった。 開設当初は武甲山から採掘される石灰石を原料とするセメント輸送が盛んであったが、トラック輸送への転換でセメント輸送は1996年（平成8年）3月末に廃止となり、バラスト輸送のためのE31形電気機関車と貨車を残すのみとなった。2008年（平成20年）7月に機関車によるバラスト輸送が廃止となり、機関車は甲種車両輸送で使用するだけとなった。2010年（平成22年）3月にE31形電気機関車も廃車となり、甲種車両輸送は全車電動車に改造した101系4両編成が代わりに行うこととなり、西武鉄道における電気機関車の歴史も幕を閉じた。E31形電気機関車はその後3両が大井川鉄道へ譲渡となり、第二の活躍の場を得ることができた。 ◇ 保存車両 検修棟内には舶来の古典旧型電気機関車や5000系レッドアロー、旧101系等計8両が静態保存されている。 <E31形> 1986年（昭和61年）から翌1987年（昭和62年）にかけて西武鉄道所沢車両工場にて4両が製造された小型直流用電気機関車外観は西武鉄道の在来大型機関車であるE851型のデザインラインを継承している。  <E61形> 1923年（大正12年）鉄道省がアメリカのゼネラル・エレクトリック社より輸入した。車体は箱型で、その前後にデッキを有しており屋根上には2基のパンタグラフを設けており、同時期に輸入されたイギリス製に比べ無骨さは影を潜めている。 		

<E851 形>

1969 年（昭和 44 年）の西武秩父線開通に際して、秩父方面から正丸峠を越えてセメント輸送列車が運行されることとなり、民鉄最大級の機関車として三菱重工業（車体）及び三菱電機（電気機器）において 4 両が製造された。



<E71 形>

1925 年（大正 14 年）アメリカのウェスチングハウス・エレクトリック社（車体・電気品）及びボールドウィン社（機械類）で製造された。現在は国鉄時代の塗装に復元、ナンバーも ED10 に戻されている。



<E51 形>

1923 年（大正 12 年）スイスのブラウンボベリィ社及びロコモティブ・アンド・マシンワークスで共同製造された。車体はスイスの機関車らしく全体的に角の取れたデザインとなっていて、パンタグラフ集電舟が 1 本しかないのが特徴である。



<E41 形>

1926 年（大正 15 年）から 1929 年（昭和 4 年）にかけてイギリスのイングリッシュ・エレクトリック社にて製造された。前後にデッキを備えた箱型車体で、正面窓に対して乗務員室窓が向って左側にオフセットされた配置が独特である。デッキは台車が車体前後へ張り出したその上に設置されている。



団体名 公益財団法人東日本鉄道文化財団

館名 鉄道博物館 (THE RAILWAY MUSEUM)

【所在地】〒330-0852 埼玉県さいたま市大宮区大成町 3-47

【TEL】048-651-0088

【FAX】048-651-0570

【URL】<http://www.railway-museum.jp/>

【沿革】2007(平成 19)年 10 月 14 日開館

【お知らせ】

●鉄道博物館開館 4 周年記念特別企画『「時間旅行展」～生活と通勤電車の進化～』を開催中

高度経済成長期から現在までの約半世紀の間に日本は様々な進化を遂げました。鉄道においても当館で保存している 101 系電車や 0 系新幹線電車が登場し、東京タワーの完成や東京オリンピックの開催など豊かな時代の幕開けとなりました。本展では、このような時代を通勤電車と身近な生活シーンを交え、この半世紀の歴史を体感しながら、これからの未来への夢や希望を抱く体験型展示を行います。

会期 2011 年 10 月 8 日 (土) ～2012 年 1 月 9 日 (月・祝)

会場 鉄道博物館 2F スペシャルギャラリー

●「てっぱくひろば」がオープン

2011 年 4 月 29 日より、当館南側の屋外に「てっぱくひろば」がオープンしました。天気の良い日に食事スペースとしてご利用いただける芝生広場をはじめ、鉄道をデザインしたオリジナル公園遊具、ミニ SL が運行できる 5 インチ線路や鉄道車両などの出張展示スペースを設置し、様々なイベントも行います。



▲『「時間旅行展」～生活と通勤電車の進化～』



▲てっぱくひろば

●館内設備のリニューアル

- ・ 蒸気機関車のナンバープレート展示公開
- ・ プロムナードに様々な鉄道情景音が流れる演出を加え、人気撮影スポットの D51 蒸気機関車カットモデルでは蒸気が噴出するビジュアル演出を実施。
- ・ 画像合成システム「はいっチャオ！」を新設。
- ・ 鉄道歴史年表にテーマ展示手法を用いるとともに、これまで未公開であったきっぷやスタンプを展示。

【活動状況】

●企画展等

- ・ 「はやぶさ～鉄道と宇宙」展 (平成 23 年 3 月 2 日～5 月 8 日)
東北新幹線 E5 系「はやぶさ」と小惑星探査機「はやぶさ」が夢の実現に向けた奇跡をたどるイベントを実施。
- ・ 第 4 回企画展「駅の風景」(平成 23 年 5 月 28 日～平成 23 年 8 月 31 日)
1970 年～1980 年代に描かれた駅舎の絵画と現状の写真を対比して展示。

●映画上映

上映内容	上映タイトル	期間
「御料車～知られざる美術品～」 開催記念映画会	「御料車～その魅力と歴史～」(16 分)	10/9～1/16
「余部橋りょう」記念映画会	「余部橋りょう さらなる 100 年～」(20 分)	1/22～3/14

団体名 財団法人 東武鉄道共助会
東武博物館

TOBU MUSEUM OF TRANSPORT & CULTURE

〒131-0032

東京都墨田区東向島4-28-16

TEL 03-3614-8811 FAX 03-3614-8814

URL <http://www.tobu.co.jp/museum>

保存車両 明治31年ベヤーピーコック社（英国）製蒸気機関車2両【東武鉄道最初の蒸気機関車】
大正13年日本車輛(株)製木造2軸ボギー電動客車【東武鉄道最初の電車】
昭和4年イングリッシュ・エレクトリック社製ED101形【東武鉄道最初の電気機関車】
101号、昭和26年汽車会社製5700形5701号【戦後初の新造特急車両】
など、東武鉄道のさまざまなジャンルの車両12両を展示。

施設概要 さまざまなアプローチから鉄道の魅力を堪能できる博物館。12両の実物車両を保存展示しているほか、実際に作動させて楽しむ展示物も多数あります。迫力のフルハイビジョン映像で運転体験のできるシミュレータは3台。運転コースは日替わりで設定しています。また、ジオラマ上で模型電車を走らせることのできる実物の運転席も4台あります。さらに、汽笛を鳴らしながら車輪を回転させるSLショー、約150両の模型電車が関東平野をイメージした巨大ジオラマを走り抜けるパノラマショーも必見です。



団体名	財団法人 日本ナショナルトラスト 	〒102-0083 東京都千代田区麹町 4-5 海事センタービル TEL 03-6380-8511 FAX 03-3237-1190
-----	---	---



○2011 年「トラストトレイン」運転日

4 月 17 日 (日)、6 月 18 日 (土)、7 月 2 日 (土)、
8 月 28 日 (日)、10 月 15 日 (土) 計 5 回

※8 月 28 日は「親子ボランティア」を開催

〔区間〕 大井川鐵道 金谷―千頭間 (39.5km)

〔保有車両の編成〕

スハフ 43 形 2・3 号客車、オハニ 36 形 7 号荷物
合造客車

〔運行時間〕

新金谷駅 11:58 発→千頭駅 13:13 着

千頭駅 15:23 発→新金谷駅 16:42 着

【近況報告】

○「親子ボランティア」の開催

8 月 28 日は、通常の運転日ボランティアに加えて「親子ボランティア」を開催しました。次世代を担う子供たちに歴史的な車両の魅力を伝えるため、実際に自分たちが乗る SL を磨いたり、車掌さん体験として車内放送を行ったり、SL 機関士体験としてナッパ服に着替えて自分の手で汽笛を鳴らし、石炭の釜入れもしました。今年の 10 月に新金谷駅に完成予定の転車台にちなんで、千頭駅にて参加者全員で転車台回し体験 (写真上) をしました。

参加者は一般参加者が約 20 名、うちお子さんが約半数でにぎやかな親子ボランティアとなりました。車内では「トラストトレインクイズにチャレンジ！」などの企画で大変な盛り上がりとなりました。普段の生活では体験できないことをたくさんできて、子供たちも大満足のようでした。日刊スポーツの記者さんも全行程に参加してくださいました。



○「SL フェスタ 2011」にトラストトレインが登場



大井川鐵道の新金谷駅に新設される転車台の完成にあわせて 10 月 7～10 日に開催された「SL フェスタ 2011」にトラストトレインが登場！ 普段の運転日では SL にけん引されている客車が EL にけん引され、お客様を運びました。SL が新金谷駅を出発した後は、新設された転車台に C12 が乗りました。

←きれいに塗装された C12

※ボランティア募集※

トラストトレインでは皆様のボランティア活動へのご参加をお待ちしております！！

団体名

公益財団法人交通協力会

102-0083 東京都千代田区麹町6-6 麹町東急ビル
電話 03 3239 6641 FAX 03 3239 6642

沿革

当会の前身である財団法人陸運協力会は、戦争中の1943(昭和18)年、当時の鉄道省によって設立されました。設立の背景には、それまで民間会社に依存していた鉄道関係の新聞、雑誌、書籍などの刊行が、紙の統制のため困難になったという事情があったようです。同年4月1日、現在の交通新聞の前身である「陸輸新報」の刊行が始まり、各種の雑誌も相次いで刊行されましたが、戦局悪化のため翌年4月から新聞がタブロイド版に縮小するなど、困難が戦後まで続きました。

昭和21年1月、新法人として財団法人交通協力会が設立され、陸運協力会の業務を全て引き継いで再出発しました。「陸輸新報」も「交通新聞」を名を改め、雑誌「交通技術」と「交通年鑑」の刊行も始まりました。1949(昭和24)年、公共企業体日本国有鉄道の発足とともに、雑誌「国有鉄道」と雑誌「国鉄線」の刊行が始まり、「交通技術」とともに1987年の国鉄分割・民営化まで、国鉄の機関誌として継続発行されました。この間、鉄道創業80年記念事業として国鉄が編纂した「鉄道辞典」や同じく創業百年の事業として国鉄が編纂した「日本国有鉄道百年史」が当会から刊行されました。

1987(昭和62)年の国鉄改革にあたり、長らく当会の事業として行ってきた新聞雑誌の刊行と出版事業は、新たに設立された株式会社交通新聞社が引き継ぎ、当会は交通図書賞の選定表彰など非営利の公益事業に専念しております。

電子図書館「戦中戦後の国有鉄道と交通」

当会では、国鉄時代に刊行した「交通年鑑」、「国有鉄道」、「国鉄線」、「交通技術」などを電子復刻し、インターネット上の電子図書館「戦中戦後の国有鉄道と交通」で公開する準備を進めています。いずれも終戦直後からの鉄道と交通の歴史を記録した貴重な資料です。

<http://library.transport.or.jp/> にアクセスし ID とパスワードを入手すると、交通年鑑既刊全冊を閲覧できます。



戦後鉄道史資料の発掘と保存・活用

あと12年で日本の鉄道は創業150年を迎えます。いずれ「150年」史の編纂が課題となりましょう。第二次大戦後だけでも既に65年を経過しましたが、戦後鉄道史資料の保存状況は必ずしも良好とは言えません。

当会は、研究者や関連団体とも連携しながら重要資料の発掘、保存、公開に努め、戦後鉄道史研究の進展と水準向上のために尽くしたいと考えています。

■上松町 赤沢森林鉄道

〒399-5601

長野県木曽郡上松町大字上松159-3

上松町観光情報センター内

TEL 0264(52)1133 FAX 0264(52)4180

<http://www.avis.ne.jp/~hinoki/>



2011年、赤沢森林鉄道は 次の日程で運行されています。

○ 2011年度運行日程

今シーズンは、4月29日～11月7日まで軌道整備日を除いて連日運行しています。

写真:「赤沢の森林を走行する森林鉄道」

上松町観光協会フォトコンテスト入選作品

題名「美しい森の凜とした顔」(石曾根志季子 撮影)

【運行時刻】

土曜・日曜・祝日・紅葉シーズン 9:30～15:30の30分毎に1便運行

※ 夏休み運行期間中は 9:00の便が追加されます。

※ 上記以外の平日は10:00～14:00までの1時間毎に1便運行 (ただし、軌道整備期間は除く。)

○乗車料金 (15名以上は団体・各100円割引)

大人800円 4歳～小学生500円

※ 夏期イベント期間(7月30日～8月21日)は、イベント参加料金となります。

大人 1000円 4歳～小学生700円

○運行区間 森林鉄道記念館前～丸山渡停車駅 往復2.2kmを25分で運行

【2011年の記事】

昨シーズンに引き続き、赤沢森林鉄道運行業務は、第三セクター「上松観光開発有限会社」に運行委託しています。

今シーズンは、3月に発生した東日本大震災、栄村大震災の影響により、春先の観光客が激減しておりましたが、夏季シーズンから徐々に回復し、例年並みのお客様にご利用いただいております。しかし、9月の台風12号の影響により、赤沢森林へのアクセス道路の一部で落石が生じ、応急復旧工事期間中、臨時運休をしておりましたが、10月1日から通常通り運行再開をしました。



「ディーゼル機関車オーバーホール」

現在運行しているディーゼル機関車 AFT01号も導入から10年以上経過し老朽化が見受けられたため、今後は AFT02号と共に計画的なオーバーホールを実施し、安定的な運行を実施していきます。

今年度も秋の紅葉シーズンは連日運行いたします。たくさんのお客様のご乗車をお待ちしております。

団体名	財団法人 伊豆市振興公社 修善寺虹の郷	〒410-2416 静岡県伊豆市修善寺4279-3 Tel 0558-72-7222 Fax0558-72-7133
-----	---------------------------	--



NORTHRN ROCK II

保有車両

蒸気機関車 4両

ERNEST W TWINING	2-C-1	1949年製造
NORTHERN ROCK II	1-C-1	1989年製造
CUMBRIA	1-C-1	1992年製造
C-11 (金沢工業大学より貸与された)	1-C-2	1996年製造

ディーゼル機関車 2両

JOHN SOUTHLAND II	B-B	1988年製造
CITY OF BIRMINGHAM	O-C-O	1992年製造

客車

普通客車	(乗車定員 20名)	13両
オープン客車	(乗車定員 20名)	2両
車椅子用客車	(乗車定員 車椅子4台)	3両
軌道延長	本線 2,315M	引き込み線・待避線 700M
付帯設備	転車台 1基	
建物	駅舎 2棟	機関庫 1棟

[近況報告]

2010年12月～	ディーゼル機関車 JOHN SOUTHLAND II エンジン分解整備
2011年2月	新品同様となる。
2011年 2月	蒸気機関車ボイラー性能検査
2011年 9月～11月	客車改造工事 (木造からFRPに改造)

平成23年4月は、東日本大震災による計画停電の影響を受けて入園者は減少しましたが、5月からは対前年度並みに回復し、周辺観光施設(伊豆半島)の中では最高の入園者数を維持しています。

鉄道の利用率(乗客数/入園者数)は58%、開業以来22年間、ほぼ同じです。

ホームページ <http://www.nijinosato.com/>

■島田市 大井川鐵道

〒428-8503

静岡県島田市金谷東2丁目1112-2

TEL 0547(45)4112 FAX 0547(45)4115

<http://www.oigawa-railway.co.jp>



平成23年10月7日 稼動開始！新金谷転車台

大井川鐵道株式会社 S L川根路号 新金谷～千頭(静岡県)

※新金谷の転車台完成に伴い、S L列車牽引の蒸気機関車は往路、復路共に正向(前向)牽引になりました。

運転車両 : 蒸気機関車 / C108号・C11190号・C11227号・C5644号
電 車 / 元近鉄16000・南海21000・京阪3000他

運転期間 : 通年運転
※S L列車は、原則として12月上旬から3月中旬の火・木曜日は運休(平成23年度)

備 考 : インターネットを利用したS L列車座席予約は、大井川鐵道公式ホームページにて承ります。

問合せ先 : 大井川鐵道株式会社 鐵道サービスセンター
Tel. 0547-45-4112
ホームページ: <http://www.oigawa-railway.co.jp>

大井川鐵道公式ホームページでは、車両の紹介をはじめ、各種割引乗車券、イベントの情報などをご案内しております。

■名古屋市 リニア・鉄道館

〒455-0848

名古屋市港区金城ふ頭 3-2-2

TEL 050(3772)3910 (JR 東海)

<http://museum.jr-central.co.jp/>



賑わう館内



シンボル展示室

Information

○入館料 大人 1,000 円 (団体 800 円)
 小中高生 500 円 (団体 400 円)
 幼児 (3 歳以上) 200 円 (団体 100 円)
 ※障害者手帳をお持ちのお客様と付添の方
 大人 500 円、高校生以下 200 円

○休館日 毎週火曜日 (祝日の場合は翌日)
 年末年始 / 12 月 28 日 ~ 1 月 1 日
 (※春・夏・冬休みやGWは無休)

○展示 鉄道車両 39 両 + バス 1 台
 鉄道のしくみコーナー、超電導リニア展示
 室、歴史展示室、鉄道ジオラマ、シミュレ
 ータ、シアターなど

【2011 年の記事】

○大好評だった夏のイベント (7/20~8/31)

- (1) クイズで巡るリニア・鉄道館
- (2) 夏休み工作教室 (紙・木)
- (3) 新幹線運転台の特別公開 (0, 100, 300 系)
- (4) 体験学習 (操作体験)
 (腕木式信号機、マルス発券機、タブレット式閉そく器)
- (5) 他のイベントとのタイアップ企画 (新幹線なるほど発見デーetc)



紙工作教室



マルス発券機体験

○満載の秋のイベント (10/8~24)

- (1) 収蔵車両公開ツアー (モハ 63, オヤ 31)
- (2) 蒸気機関車の飾り付け (C62, C57)
- (3) 硬券印刷機での印刷と入鉄体験
- (4) 鉄道ジオラマ 国鉄車両共演 (119 系、103 系など)
- (5) 体験学習「電気ってなあに？」
- (6) 国鉄時代の映像公開「つばめを動かす人たち」
- (7) ミニ S L ・新幹線運転 (10/15, 16)



C 5 7 蒸気機関車の飾り付け

団体名	財団法人 博物館 明治村	〒484-0000 愛知県犬山市内山 1 番地 電話 0568-67-0314
-----	------------------------	---

近況報告

蒸気機関車 1 2 号・9 号及びハフ 1 1・1 3・1 4

昨年 12 月 20 日より経年劣化の進行状況の調査のため運休

京都市電

昨年 12 月 20 日より経年劣化の進行状況の調査のため運休

実績と今後の予定

村内で動態展示（運行）しておりました京都市電と蒸気機関車は、平成 22 年 12 月 20 日より当分の間、運行を休止しております。

現在動態展示中の京都市電 2 両と蒸気機関車 2 両は、すべて明治時代に製造された車輛です。この度京都市電が製造後 100 年・蒸気機関車 12 号も製造後 137 年以上が経過したことから、老朽化による経年劣化の進行状況の調査のため詳細な点検が必要と判断し、運休を決定いたしました。

今後の運行再開につきましては、調査結果を待っての判断となるため、現段階では未定でございます。

早期に運行再開ができるよう、スタッフ一同、鋭意努力して参ります。

以上

ACCESS



●三岐鉄道三岐線で近鉄富田駅より最速31分、丹生川駅下車
※三岐線のJR富田～大矢知間は貨物列車のみの運行です。JR富田駅から近鉄富田駅は徒歩約10分です。

ご利用案内

- 開館時間／午前10:00～午後4:00
- 入館料／無料
- 開館日／毎月第1日曜日(1月のみ第2日曜日)
(その他、臨時に開館することがあります)

ご寄付のお願い

当館は、皆様からのご寄付により運営しております。
皆様からの、温かいご支援をお待ち致しております。
1口1,000円からお受けしております。

- 口座名義／貨物鉄道博物館
ゆうちょ銀行 099店 当座 0179186
郵便振替 00970-8-179686

⚠ 展示車輛に上ることは大変危険ですからおやめください。
万一おケガをされた場合でも、当館は責任を負えません
ので、十分ご注意ください。

特定非営利活動法人



Freight Railway Museum
貨物鉄道博物館

三重県いなべ市大安町 三岐鉄道三岐線丹生川駅前
事務局: 〒510-8014 三重県四日市市富田3丁目22-83 三岐鉄道株式会社内
TEL 059-364-2141 / E-mail frm_office@yahoo.co.jp

<http://frm.kans.jp/>

貨物鉄道の歴史を 感じてみませんか



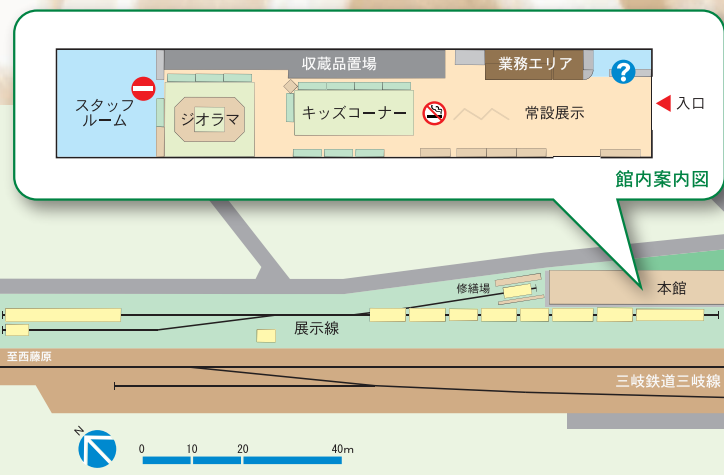
正面イラスト:横溝英一

貨物鉄道博物館のあらまし

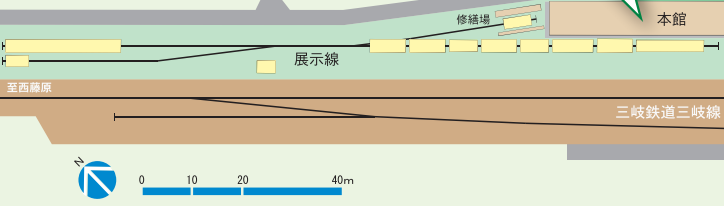
日本の経済発展を支えてきた、鉄道による貨物輸送が、1873(明治6)年9月15日に始まって以来、2003(平成15)年に130周年を迎えるのを記念して、初めての貨物鉄道を専門とする博物館として当館は開館しました。

主要な展示物であるさまざまな種類の実物貨車は、全国の鉄道事業者や企業・個人からの寄贈や貸与によるもので、現存する最古級の貴重な車輛が勢揃いしています。

当館は、一般からの寄付とボランティアにより運営されております。皆様の温かいご理解とご支援をお願い申し上げます。



館内案内図



収蔵車

※収蔵車輛の一部を掲載

■B4形39号



■ト200形246号



■シキ160形160号



■ワ11形11号



■ホサ1形1号



■タム5000形6263号



団体名	西日本旅客鉄道株式会社	〒530-8341 大阪市北区芝田二丁目4番24号 TEL06-6375-8513
-----	-------------	---

○ 英国国立鉄道博物館 (NRM) の 0 系新幹線電車展示10周年を記念して、現地にて式典がおこなわれました。

JR 西日本が保有し(公財)交通文化振興財団が委託運営をおこなう「交通科学博物館」と「梅小路蒸気機関車館」は、平成13年4月にイギリスのヨークにある国立鉄道博物館(以下NRM)との姉妹提携を結びました。JR 西日本は姉妹提携の交流事業の一環として 0 系新幹線電車を無償譲渡し、メイン展示物の一つとしてNRMに展示されています。

この度、0系展示から10年目を迎えた節目を記念して、7月21両日にNRMにおいて記念式典が開催され、JR 西日本と交通文化振興財団から代表が式典に出席し、0系展示10周年を祝いました。



式典で挨拶する JR 西日本代表



NRMが東日本大震災に対して設置していた慰問帳を日本駐英大使館に手渡しました。

○ NRMとの姉妹提携の中に、新たに「ロコモーション」が加わりました。

今後の博物館の更なる発展のため、交通科学博物館、梅小路蒸気機関車館とNRMの姉妹提携の中に、新たにNRMの分館である「ロコモーション」が姉妹提携先として加わることになり、記念として7月20日にロコモーション館内にサクラの木の植樹をおこないました。



シルドンのロコモーション館内において姉妹提携記念植樹をおこなう(財)交通文化振興財団代表



「ロコモーション」は世界初の産業用鉄道であるかつてのストックトン・アンド・ダーリントン鉄道と炭鉱への支線の跡地を利用し、保存・活用している博物館である。

今後とも鉄道文化遺産を保存・活用し、鉄道の歴史を確実に将来に残していく為に、様々な課題を克服し努力し続けて参りたいと思います。

団体名



加悦SL広場

宮津海陸運輸(株)(旧カヤ興産(株))

〒629-2422 京都府与謝郡与謝野町字滝941-2

TEL 0772-42-3186 FAX 0772-43-0080

URL <http://www.kyt-net.ne.jp/kayashiroba/>

【近況】 カヤ興産株式会社はグループ会社である宮津港運株式会社と合併し平成23年4月1日
宮津海陸運輸株式会社として発足いたしました。今後とも変わらぬご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

■ DB202号(昭和38年 日立製作所製) 及び ワブ3(大正15年 台車:大阪梅鉢鉄工所製) 修復完了



荷物台車の復元

■ 平成22年11月「SL広場周年祭」 及び 平成23年5月「初夏の加悦鉄道まつり」を開催

■ 現在の主な修復車両の取組み



DC 351号

昭和31年1月 汽車製造株式会社製

車歴

昭和31年3月

南部鉄道(青森県)

昭和42年7月

加悦鉄道へ転入

昭和60年5月

加悦鉄道廃線により休車

加悦鉄道での使用用途

岩滝工場専用線にて貨物牽引、貨車入換

現在、外装関係の修復作業に取り組んでいます。修復中の状態は原則、水曜日、木曜日除き見学可能です。
その他にも、ハ10、モハ1202など客車を中心に並行して修復を行っています。

■ 平成23年度「SL広場周年祭」平成23年11月5日(土)～6日(日) 開催予定

今後も車両等の修復を通し、加悦鉄道の歴史・鉄道文化遺産の保存・維持に取り組んで参ります。

■2010 年 10 月～2011 年9月の活動

○加悦 SL 広場での活動



〔DB202〕



〔ワブ3〕



〔DC351 の入庫〕

修復作業を終えた「DB202」と「ワブ3」が展示場所に帰り、「DC351」が修復のため入庫しました。

DC351 は、車体などのケレン作業を中心に窓枠や扉などを取り外し修復作業を進めています。



「再現列車、車内の様子」



「ガイドツアー」

「加悦SL広場」でのイベント（11月・5月）では、動態保存車輛の運転や保存車輛の解説を行うガイドツアーなどを行ないました。

○加悦鐵道資料館での活動

資料館の展示レイアウトの変更やジオラマの制作、地元で開催される「ちりめん街道まるごとミュージアム」に参加し模型の運転会を行い、地元の方々と親交を深めています。また、数々の資料を元に作成した「新版 よみがえる加悦鐵道」を発刊、加悦鐵道と保存車輛、それと当会の活動を紹介したものです。



〔保線関係の展示〕



〔鐵道模型運転会〕



〔加悦駅構内のジオラマ〕



〔『よみがえる加悦鐵道』〕

■ 今後の予定

10月23日ちりめん街道丸ごとミュージアム。11月6日加悦SL広場 周年祭。5月の「初夏の加悦鐵道まつり」DC351の修復作業を中心に各保存車輛の整備。

加悦鐵道資料館・丹後山田駅資料室の維持管理・展示品の整備拡充。

団体名 ふるさと鉄道保存協会

本部事務局

〒674-0051

兵庫県明石市大久保町大窪 818-3 中井方

oyu10-2565@actv.zaq.ne.jp

貴重な車両など鉄道遺産の保存、活用のための各種活動を行うボランティア団体です。

【最近の活動】

★本部

- 国鉄コンテナC10「夢コンテナ」の移転整備と「かぼちゃ電車保存会」様への収蔵品譲渡(福井県敦賀市)



- ディーゼル機関車DB20、キハ 605、貨車等を金屋口鉄道保存会様に貸与し和歌山県有田川町鉄道交流館で動態保存



★セカンドステージワーキンググループ

- 廃車鉄道車両の活用を研究、実践



★チャリトローキンググループ

- 軌道自転車車を伊賀鉄道様に貸与(三重県伊賀市)



★鉄道郵便ワーキンググループ

- 鉄道郵便車オユ 10 2565 一般公開と補修作業
「鉄道郵便車フェスティバル 2011 ウィンター・スプリング・オータム」



★ヨ 9001 ワーキンググループ

- 高速設計車掌車ヨ 9001 の保存公開(福岡県赤村)
5年ぶりの全塗装を実施



ホームページ <http://furutetu.web.fc2.com/>

平成23年度 片上鉄道保存会 活動報告



平成23年1月2日の展示運転

平成23年度は、これまでより、団体の立ち寄りやツアーへの協力などが増えました。また、昨年よりも1日会員数の平均が150人から177人と増え年間2648人(大人のみ)のお客様が体験乗車されました。

活動内容は変わらず、保線・車両整備・景観整備・システム保全など、鉄道としてやるべきことを肅々と継続いたしております。

今年はドラマ『砂の器』のロケが行われるなど華やかな面もありますが、会員一同、変わらず、地味な保存活動を続けております。

◆片鉄保存会の主な作業内容

- ・保全設備系
- 花見踏切の枕木更换(継続中)
- 検修庫延伸
- 4R4 灯化
- 構内通路に信号機新設
- ・安全対策
- ソフト面を重点に対策



花見踏切更新工事と検修庫の延伸



ワム 1807 を吉ヶ原移送

- ・車両系
- 客車3両:全塗装うち1両を国鉄色に
- 気動車全車:塗装
- DD13-551:バッテリー交換
- 気動車:ブレーキ調整、整備、Hゴム/ライトなどの部品交換、屋根などの補修、オイル交換
- ◆吉ヶ原以外での保存活動
- ・貨車:ワム 1807 を片上から移送
- ・DD13-552:片上港にて全塗装(作業は(株)片上鉄道へ外注)



片上港のDD13-552を塗装



ドラマ『砂の器』(9月10日・11日放映)撮影風景



◆イベント関係

- ・ドラマ『砂の器』撮影協力
- 吉ヶ原駅が羽後亀田・勝沼・山中の3駅に変身
- また、客車を使用して夜のシーンのほとんどを撮影しました

◆駅長猫コトラの活躍

- ・琴平電鉄琴平駅長・美咲町観光大使に委嘱されました



琴電琴平駅駅長・美咲町観光大使に委嘱

「若桜駅を元気にする会」の活動報告

《団体の概要》

設立日：平成 23 年 1 月 27 日

会 長：藤原 源市

会員数：41 名（H23.9 現在）

目 的：若桜駅と地域の発展を目指した活動を展開する。

《平成 23 年度の取り組み》

米山淳一氏をはじめ、四国旅客鉄道(株)と日本貨物鉄道(株)のご協力を得て、7 月 3 日に 12 系客車 3 両（オロ 12-9、スロフ 12-3、スロフ 12-6）が若桜駅に到着!!

当日は、蒸気機関車と D E 1 0、キハ 4 7 が若桜駅構内に勢揃い。国鉄時代を思わせる風景がよみがえり、多くの鉄道愛好家が訪れた。

また、12 系客車の到着を祝い、「12 系客車誘致記念イベント」を若桜駅構内と隣接する道の駅で開催。客車の一般公開や当日限定オリジナル駅弁の販売、特産品の販売などを行い、約 1,500 人の人で賑わった。

当面は、この客車を観光客向けの昼食スペースやイベントスペースなどに活用する予定。



若桜駅に停留した C 12-167 と D E 10-1058



キハ 47 と D E 10-1058、12 系客車
(撮影:佐藤邦弘 氏)

《今後の取り組み》

- ① 軌道周辺の草刈りなどの鉄道施設管理や若桜鉄道が実施する観光施策の支援
- ② 鉄道と駅周辺の活性化につながるイベントなどの支援

○最重要課題

12 系客車を使って若桜線に観光列車を走らせ、若桜鉄道の発展と地域の活性化を目指す運動を沿線地域の団体とともに取り組んで行く。(最終目的は蒸気機関車の運行)

NPO 市民文化財ネットワーク鳥取の活動

組織の目的

歴史遺産は、心の支えです。生活を豊かに、楽しくします。

市民文化財ネットワーク鳥取は、鳥取の歴史遺産を見直し、調査し、修復・保存・技術伝承をめざし、かつ観光資源を活用しながら鳥取らしさを創造する団体です。

2004年4月にNPO法人を取得しました。会員数118名

今年度の主な活動

- ・鳥取市山の手地区の歴史景観の修景・保全
- ・若桜町春米（つくよね）地区の茅場再生事業
- ・歴史遺産の発掘とその文化財：登録文化財制度の活用

鉄道関連の主な活動

- 1：若桜鉄道の保存並びに沿線の活性化
- 2：若桜町と陸別の交流



＊1 「DE10 1058」 が来た



＊2 記念式典後車内で昼食



＊3 しばれフェスティバル参加



＊4 陸別町の方々と交流

団体名	馬路村	〒781-6202 高知県安芸郡馬路村大字魚梁瀬 10-11 馬路村役場魚梁瀬支所 TEL:0887-43-2211 FAX:0887-43-2208 E-mail: yanase@mb.inforiyoma.or.jp
-----	-----	---

平成21年6月30日、「旧魚梁瀬森林鉄道施設」国の重要文化財に指定

銘木、魚梁瀬杉で知られるように森林資源に恵まれた馬路村。

木材搬出のため、明治44年に、国内3番目の森林鉄道として、馬路から田野間を結ぶ森林鉄道が開通しました。この鉄道は、林業の繁栄をもたらただけでなく、地域で暮らす住民たちの唯一の交通機関でもあり、生活物資や文化までも運んだかけがえのないものでした。

時代の移り変わりとともに、惜しまれながら昭和38年に廃線され、軌道などの撤去が行われましたが、現在でも、当時の面影を残す隧道や橋梁跡などが点在しています。

その18箇所（馬路村内では4箇所）がこのたび、国の重要文化財の指定を受けました。

広域（馬路村を含めた5ヵ町村）で国の重要文化財の指定を受けるのは、我が国初のことです。

●馬路森林鉄道

実物の3分の2の大きさに復元された森林鉄道。安田川支流の西谷川沿いに線路が敷かれ、約300mの周回コースを走ります。

◎場所／馬路村馬路 馬路温泉前

◎運行日／日、祝日 8時30分～16時

[8月は毎日運行]

◎料金／乗車大人300円など

◎お問い合わせ／馬路温泉 [TEL:0887-44-2026](tel:0887-44-2026)



●魚梁瀬森林鉄道

魚梁瀬ダム湖が見下ろせる丸山公園に、復元された森林鉄道があります。指導を受けながら運転することができる「運転手体験」メニューもあります。

◎場所／馬路村魚梁瀬 丸山公園内

◎運行日／日、祝日 9時30分～12時、

13時～15時30分

(11月～3時は15時まで)

[8月は土曜も運行]

◎料金／乗車大人400円、運転体験1,000円など

◎お問い合わせ／馬路村役場魚梁瀬支所

[TEL:0887-43-2211](tel:0887-43-2211)



団体名	山口線SL運行対策協議会	連絡先 〒753-8501 山口県山口市滝町1-1(山口県観光交流課内) TEL:083-933-3170 FAX:083-933-3179 E-mail:c571@c571.jp HP:http://www.c571.jp/
-----	--------------	---

祝！SL「やまぐち」号ご利用200万人達成！

1979年(昭和54年)8月1日に復活運転を開始したSL「やまぐち」号は、復活32年目の今年7月23日、ご利用200万人を達成！これを記念して「達成記念キャンペーン」を実施中！

1. キャンペーン期間

平成23年8月1日(月)から11月20日(日)

2. 実施内容

●200万人達成記念プレゼント

期間中の乗客全員に、オリジナルハガキをプレゼント



【達成記念オリジナル切手の発行】
郵便局株式会社が復活記念日の
8月1日に発行(5,000部)

●観光キャラバン隊等による観光PR

沿線の観光キャラバン隊等が新山口駅SLひろばで、観光PRやお客様との記念撮影を行います。



やまぐち市観光キャラバン隊
(おおちゃん&うっちー)



やまぐち歩き隊



やまぐち観光奇兵隊



ぐるるんガールズ

【山口線SL運行対策協議会】

- (1)事業 安全対策、環境対策、宣伝対策、その他
- (2)会員 JR西日本、山口県、島根県、山口市、津和野町
- (3)事務局 山口県地域振興部観光交流課
- (4)協議会の発足 昭和54年1月16日

【SL「やまぐち」号】

- (1)運行開始 昭和54年8月1日～
- (2)運行区間 新山口駅—津和野駅(62.9km、約2時間)
- (3)運転日 3月下旬～11月中旬の土・日・祝日を中心に運行
- (4)定員 360人
- (5)客車 ①展望車風(56)②欧風(80)③昭和風(80)④明治風(72)⑤大正風(72)

URL: <http://www.c571.jp>

団体名	九州旅客鉄道株式会社	連絡先（住所・電話等） 〒812-8566 福岡市博多区博多駅前 3-25-21 Tel 092-474-2541 Fax 092-474-3898
-----	------------	--

九州鉄道記念館 鉄道の祭典（10/8～10）

九州鉄道記念館では、平成 23 年度も、10 月の 3 連休に「鉄道の祭典」が行われ、鉄道ファンやファミリーなどたくさんのお客さまでにぎわいました。

主なイベント

○元祖鉄道系アイドル「豊岡真澄」ミニトークショー&撮影会

元祖鉄道系アイドル「豊岡真澄」さんのミニトークショー・展示車両をバックにした撮影会を実施しました。

○485 系国鉄色車両展示・撮影会

昭和 40 年から運行を開始し、今年 3 月 12 日のダイヤ改正で定期運行から引退した 485 系の国鉄色車両の展示会を実施しました。

○鉄道おしごと体験 運転士・車掌編

JR 九州の現役運転士・車掌と一緒に展示車両を使用して運転士・車掌の体験をおこないました。



SL 人吉 100 年レイル肥薩線の旅

平成 21 年 4 月 25 日にデビューした「SL 人吉」は、平成 23 年度も順調に運行しています。

8620 形蒸気機関車・通称ハチロクは、かつて大正 3 年に国産初の量産型旅客用機関車として登場したもので、現役では最高齢の SL です。現在は「SL 人吉」として、全国から高い人気を集めています。「SL 人吉」で極上の鉄道旅行をお楽しみください。



平成 23 年度「SL 人吉」運転概要

運 転 日：平成 23 年 3 月～11 月

【月・金・土・日・祝日】

運行区間：熊本～人吉駅間（1 日 1 往復）

※冬季期間中は運転しません。

※平成 24 年 3 月以降の運転時刻はあらためてお知らせします